アジアで低温輸送

ITE、独自の保冷材使用

保冷システムを手がけるアイ・ティ・イー（ITE、東京・千代田、パンカジ・ガルグ社長）はインドなどアジアで低温物流事業を始める。新設した販売子会社「アイスバッテリー」（同）を通じて、現地の物流や食品、医薬品会社などと合弁会社を設立する。2020年に50億円の売り上げを目指す。

ITEは最長で1週間に渡って温度を一定に保つシステムをリース販売している。特殊な化合物を封入した板状の容器を使用。容器の種類や数を変えることで、セ氏マイナス25度～プラス25度の範囲で温度を自由に設定できる。

冷凍機などで冷却するより低コストで、ドライアイスより長持ちするのが特徴という。現在は飲食店が食材を運んだり、医薬品会社がワクチンを輸送したりするのに使われている。リース価格は100枚で月3万円から。低温輸送車や保冷材用の冷凍庫などのリースも手がける。

これまで常温での物流が多かったアジアや中東でも、食品の鮮度維持などのために低温物流の需要が拡大している。このため、各地の物流会社などと設立する合弁会社を通じて、独自システムを販売する。コンビニエンスストアや病院などの需要を見込む。

事業拡大にあたっては、ITE本体はシステム開発や製造に特化する考え。将来的には子会社の上場を目指す。